

2020年度e-START/START+プログラム コース一覧

※2020年度10月23日現在の予定です。コース内容は予告なく変更する場合があります。
 ※コース内容は、「コース詳細」を確認してください。
 ※コース名は、英語タイトルの仮訳です。

e-STARTプログラム (学部1年次生)

| コース番号 | コース名 | 概要 | 交流する大学 | コース内 使用言語 | 対象学年 | あると 望ましい知識 | 担当教員 | 参加学生人数 |
|-------|---|---|--|--------------|------|---------------|-----------------------|--------|
| 1 | 産業化における経済開発政策と貧困解消 Economic Development Policy and Poverty Reduction Through Industrialization | 効果的に工業化するためには、発展途上の国や地域の貧困状況を効率的に改善する必要があるが、経済発展政策は天然資源の豊かさ、技術の進歩レベルと可用性、サプライチェーン、その国での産業発展の歴史、コミュニティとの合意、消費者の嗜好など、様々な要因により地域ごとに異なる。 本コースでは、国を超えたインタラクティブなグループワーク演習を通して3つの国・地域間の経済発展政策の違いについて学習する。 | Thai Nguyen University of Agriculture and Forestry (TUAF) ベトナム Sultan Ageng Tirtayasa University インドネシア | 英語 | 1年生 | 経済学や統計学の基礎知識 | 人間社会科学研究所 市橋 勝 教授 | 11人 |
| 2 | 再生可能エネルギー利用促進のための地域政策 Regional strategy for promoting renewable energy | 再生可能エネルギーの利用促進は、気候変動の緩和、貧困地域の活性化、化石燃料の保全、エネルギー安全保障の向上、新たな雇用と産業の創出などに有効にはたらく。近年では太陽光発電や風力発電にかかるコストが大幅に削減され、様々なバイオマスエネルギーの選択肢が提案されているが、天然資源の保有量、技術の進歩レベルと可用性、サプライチェーン、その国でのエネルギーシステム開発の歴史やエネルギー推進政策、地域社会との合意、消費者の嗜好など、様々な要因により再生可能エネルギーの推進戦略は異なる。 本コースでは、これらが日本、オーストラリア、フィリピンの3国間でどのように異なるのか、国を超えたインタラクティブなグループワーク演習を通して学ぶ機会を提供する。 | University of the Philippines フィリピン Institut Teknologi Sepuluh Nopember (ITS) Surabaya インドネシア | 英語 | 1年生 | | 人間社会科学研究所 金子 慎治 教授 | 10人 |

e-START+プログラム (学部1～3年次生)

| コース番号 | コース名 | 概要 | 交流する大学 | コース内 使用言語 | 対象学年 | あると望ましい知識 | 担当教員 | 参加学生人数 |
|-------|---|---|---|-----------------------------|-------|---|--|--------|
| 3 | 資源と持続可能な地域開発 Resources and Sustainable Local Development | 資源とその持続可能な利用法は、持続可能な地域開発を推進するために不可欠である。しかし、地理的条件とその地域が保有する資源によって、地域の開発目標と戦略は異なる。一般的に都市部以外の地域は現代的な「開発」から遅れをとっているケースが多いが、本コースでは特に農村開発に焦点を当て、その地域の社会的文化的背景を鑑みながら「開発」について学ぶ。 本コースでは、日本、ネパール、オマーンの農村部における開発の優先課題を、関連する重要資源とその持続可能な活用法/管理法を念頭に置き、農業・林業分野、アグロツーリズムやエコツーリズムなどの分野と併せながら理解する。 | Sultan Qaboos University (暫定) オマーン Institute of Agriculture and Animal Sciences, Tribhuvan University ネパール | 英語 | 1～3年生 | ・資源、農業、林学についての基礎知識 ・「開発」の概念の理解 | 人間社会科学研究所 Niraj Prakash Joshi 准教授 | 7人 |
| 4 | パンデミックからのアーバンレジリエンス Urban Resilience to Pandemics | 本コースでは、「レジリエンス」の概念を理解するとともに、新型コロナウイルスのパンデミックに対するレジリエンスに貢献できるコミュニティの特性についての認識を高めることを目的とする。日本、中国、スペインの学生が、経済、環境管理、ガバナンス、社会的な不平等、スマートシティ、交通、都市デザインなど様々な分野の問題について議論する。学生は様々な視点から意見交換・議論し、成功事例をもとに失敗を回避する方法についての洞察を身につける。 本コース中に実施予定の3回の授業では、アーバンレジリエンスにおいて幅広い経験・知見を持つ教員が、パンデミックからの復興をはかるために重要となる事柄を説明する。 | University of Nottingham Ningbo China 中国 Universitat Internacional de Catalunya スペイン | 英語 | 1～3年生 | ・都市開発学の基礎知識 ・各国で新型コロナウイルスがどのように拡散したかについて、経緯・過程の把握 | 人間社会科学研究所 Sharifi Ayyoob 准教授 | 9人 |
| 5 | 社会における多様性・平等・インクルージョンの推進 Fostering Diversity, Equity, and Inclusion in Society | 本コースでは、障がいやその他特別な支援を必要とする学生とそうでない学生を対象とした相互学習モデル、歴史、現在の課題について学習する。さらに、障がいやその他特別な支援を必要とする学生との共生社会の形成に向け、共同作業、設備整備、特別な教育課程を提供するための戦略について学ぶ。 | St.Cloud State University アメリカ Changchun University 中国 | 日本語、英語、中国語、日本語、アメリカ手話、中国語手話 | 1～3年生 | ・特別支援教育、インクルーシブ教育、多様性についての基礎知識 | 人間社会科学研究所 丸山 恭司 教授 川合 紀宗 教授 | 12人 |
| 6 | 日印の科学技術の動向と社会的ニーズ Japan-India Technological Trends and Social Needs | 広島大学とインド2大学が取り組む科学技術に関する幅広い話題を学ぶ。そして日印が直面している社会課題とその共通点と相違点について議論を行い、その解決のための科学技術について一緒に考えるグループワークに取り組む。 | Birla Institute of Technology & Science, Pilani インド Indian Institutes of Technology Bombay インド | 日本語、英語 | 1～3年生 | ・日印の科学技術(主に工学系)や海外の研究活動に興味があること | ILDP事務局 | 4人 |
| 7 | ポストコロナの観光～観光の将来とは？～ Tourism after Corona -What will the future look like? | 本コースは、海外の大学の学生と協働で研究・発表することを通して、グローバル人材としての資質を身に付け、国際交流の関心を高めることを目的とする。また、海外の学生とのオンラインツールを利用した協働作業や交流のあり方を学習する。 | University of Social Sciences & Humanities, Ho Chi Minh ベトナム Hoa Sen University, Ho Chi Minh ベトナム | 英語 | 1～3年生 | 以下科目のうち、1科目以上履修したことのあ る学生 ・ Introduction to Tourism Studies ・ 観光地理学 ・ Tourism Studies ・ 観光論 ・ Comtemporary Issues in international Tourism I/II | 人間社会科学研究所 Funck Carolin 教授 張 慶在 講師 | 8人 |